

## 令和7年度 数学科 授業改善推進プラン

大田区立矢口中学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・すべての学年において、問題演習の時間を多く確保し基礎知識の定着を図ることができた。
- ・習熟度別少人数授業を活用し、基礎的な問題の正答率を高めることができた。

#### (2) 課題

- ・すべての学年において「知識・技能」のポイントが高く、それに比べると「思考・判断・表現」観点のポイントはやや低い。「思考・判断・表現」の力を伸ばす必要がある。
- ・考えを分かりやすく伝える練習が必要である。話し合い活動を増やすことで、伝える力を育ませ、生徒の数学的表現力を養うことが必要である。

### 2 大田区学習効果測定の結果分析

#### (1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	「データの活用」の領域で目標値を下回る結果であった。「小数・分数の計算」「平面図形」「平均・場合の数」に課題がある。	/	/
第2学年	「一次方程式」の領域で目標値を下回る結果であった。「データの活用」に課題がある。	すべての領域で目標値を上回る結果であった。	/
第3学年	すべての領域で目標値を上回る結果だった。「連立方程式の利用」に課題がある。	「関数」「データの活用」の領域で目標値を下回る結果であった。「比例・反比例」「データの分布の傾向」に課題がある。(第2学年時)	ほとんどの領域で目標値と同じくらいの結果であった。特に、「小数・分数の計算」「面積と体積」に課題がある。(第1学年時)

#### (2) 分析（観点別）

##### ① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値は上回っているが、区平均は下回っている。	目標値は上回っているが、区平均は下回っている。	/

##### ② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値、区平均ともに下回っているものがある。基礎的な	目標値、区平均ともに下回っている。1次方程式の文章題	目標値、区平均ともに下回っているものが多い。学習の取

問題の正答率が高いが言葉の意味を理解していないものも多いため正答率が低くなっている。	に課題がある。	り組み方の振り返りに課題がある。
--	---------	------------------

### ③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値、区平均ともに上回っている。計算などの基本的な問題の正答率が高い。	区平均は上回っているが、目標値には到達できていない。連立方程式の文章題に課題がある。	目標値、区平均ともに上回っている。

## 3 授業改善のポイント（観点別）

### (1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「小数・分数の計算」については特に分数の四則計算に顕著に課題が見られる。小学校での復習を適宜入れながら授業を展開していく。	「データの活用」において理由を記述する問題に課題が見られる。データを正しく読み取り、理由とともに説明する力をつけられるよう様々な問題に取り組んでいく。	基礎基本の徹底を軸に、応用力を伸ばしていく指導を心がける。また、授業態度や課題への取り組み方にも重点を置き、声かけを行っている。

### (2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単純な計算などの基礎的な内容は定着しているが言葉の意味を忘れてしている。今後は演習量を増やししながらも、言葉については丁寧に指導する。	1次方程式の文章題において、他の分野よりも課題がある。情報を整理して立式する等の復習を行う。	単元テストや定期考査の振り返りを通して、学習の取り組み方を工夫するよう指導する。

### (3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識・技能ともに達成値が高めである。今後も基礎・基本の課題を増やして知識の定着を行う。	思考・判断・表現においては他の観点よりも課題がある。特に、連立方程式等をはじめ方程式の復習を行う。	授業態度は良好である。提出物に関しては、定期考査や単元テストの振り返りの取り組み方を工夫するよう指導していく。